

各委員から事前にいただいたご意見等

「子育て満足度日本一の実現に向けた次の一手」について、それぞれの立場で思うことや、課題と感じられている事などについて頂いたご意見等をまとめたものです

委員名	ご意見等
荒木委員	<p>キーワード：「<u>地域における子育て支援拠点施設としての児童養護施設</u>」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の小規模化かつ地域分散化について <ol style="list-style-type: none"> ① 地域小規模児童養護施設の開設 <ul style="list-style-type: none"> ・現在2か所開設、今後3か所目の検討 ② 各ユニットの小規模化推進 <ul style="list-style-type: none"> ・現在8人ユニット→6人ユニット 2. 施設の高機能化及び多機能化・機能転換について <ol style="list-style-type: none"> ① 児童家庭支援センター「ゆずりは」の機能充実 <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度開設 相談件数開設当時1,035件→現在2,045件 (主として大分市) 今後県南地域への支援策検討「ゆずりは2号」 ・児童相談所より「児童家庭支援センター指導委託措置」受託年間12件 ・生活困窮者支援「おおいたくらしサポート事業」への取り組み ・地域における子育て支援策「ゆずりはサロン」による親子関係再構築 ② 一時保護所「明日葉」の機能充実 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度開設 年間保護件数 延べ65人 延べ983日間 ・児童相談所よりの職権緊急保護の受け入れ ・事情を許す家庭については、原籍校への通学の保証 ・退所後「ゆずりは」と連携した在宅支援への取り組み ③ ショートステイ専用居室の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・年間100件を超えるショートステイ利用の受け入れ、6市と契約 ・各ユニットの空き具合により受け入れ制限 ・専用居室を整備することで地域の子育て支援の拠点施設化を図る ④ フォスターリング機関としての里親支援 <ul style="list-style-type: none"> ・地域ブロックごとのフォスターリングの実施 ・里親開拓、研修、マッチング、委託後支援 ⑤ 退所児童への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設を退所し、就職したもののリタイアしていく子どもたちの受け入れ ・児童アフターケアセンターとの連携による「継続支援計画」の策定、実行 ⑥ 地域との交流事業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者との交流行事、地域もちつき大会、地域行事への参加

委員名	ご意見等
井口委員	<p>キーワード：「子育て支援策の見える化」</p> <p>「子育て満足度日本一！」とアピールしても、実感として感じられないのは、子育て支援策の情報が必要な人に行き届いていないからかもしれません。支援策を実施している機関や団体がそれぞれ情報発信をしていると思いますが、一か所にまとめられていないため探す苦勞があります。困りごとに応じて、様々な機関や団体の取り組みが一か所で分かるような場所やインターネットサイトがあるとよいと思います。</p> <p>また、「子育て満足度日本一！」という割には、子どもの医療費や教育支援体制など行政サービスについて、ほかの都道府県の方が充実していると感じられる面もあります。できないのはできない理由があると思いますが、それを理解してもらうことも大切だと思います。例えば、行政サービスについての要望をインターネットなどで受け付け、要望の多いものに対しては行政としての回答もきちんと記載するなど丁寧な取り組みを期待したいです。</p> <p>(保育園ひとつをとっても、使用したオムツを持ち帰らないといけない園や、ご飯を持っていかねばいけない園があり、インターネット上などでは疑問に思う声が上がっています。子供の医療費についても自治体間での違いが分かりにくいです。)</p> <p>Q&Aスタイルでまとめてもらえれば、行政の子育て支援サービスに対する信頼が増すと思います。</p>
太田委員	<p>キーワード：「アフターコロナの子育て支援」</p> <p>コロナで生活が一変し学校生活や幼稚園、保育園での子供たちとの接し方も大きく変わりました。</p> <p>働き方についても、テレワークの推奨で在宅で仕事ができても子供がそばにいないがらの仕事は親も子供も大きなストレスを感じています。全国的に見れば大分は感染者が少ないですがいつまた感染者が増加するかわからず不安な状況は変わりません。</p> <p>引き続きコロナの感染を防ぐ対策を施す事、そしてもしコロナに感染してもいじめや風評被害が出ないようにしっかりとした対策をしていただきたいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自粛ムードでストレスを感じている子供たちの心のケア ・コロナで収入が減った方に支援をして子供の貧困や虐待などを防ぐ ・子供の学力低下を防ぐ。ある程度の収入がある人は塾などに通わせる事ができるが収入が減った人には難しい。オンラインでの学習なども広く利用できないか。 ・コロナ後は、子ども同士が気軽に遊ぶことすら、子ども達自ら自粛してしま

委員名	ご意見等
	<p>っている。</p> <p>学校では、周囲の子どもと話す時も気を使っている一方で、運動場でもマスクをして気分が悪くなる子がいるなど、学校ごと、または市町村ごとにその対策が不ぞろいであることが気になっている。</p> <p>元に戻ることを期待せず、新しい生活様式となるのであれば、新しい学校様式も作るべきだと感じています。</p>
岡田委員	<p>キーワード：「<u>領域の設定と重点化、異年齢・異世代交流</u>」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県の子育て環境全体の底上げと特筆すべき特徴的な取り組み事例の収集・開発 ・貧困や非行など課題への取り組みとより踏み込んだ「豊かな・優れた」子どもを育てる支援 ・子どもたちの社会意識やライフデザイン、自己肯定感の形成に向けて異年齢・異世代交流の推進
小野委員	<p>キーワード：「<u>つながり</u>」</p> <p>これまで本会議の出席を通じて、子育て満足度日本一に向けて、それぞれの部署や機関が目標に向けて取り組んでいることがよくわかりました。しかし、子どもや保護者の支援を行う場合、関係部署や機関の横のつながりがあまり見えてきませんでした。</p> <p>子どもの発達成長に伴うタテのつながり、問題の複雑さや大きさに伴うヨコのつながり、地域で支えるナナメのつながりが考えられますが、これらのつながりがうまくいくと子育て満足度日本一により近づくのではないかと思います。</p> <p>支援者どうしのつながりは、支援者のバーンアウトを防ぎます。また、それを利用する人たちのつながりにもなります。</p> <p>支援者が単独で抱え込まない、子どもも保護者も多くの人とのつながりを実感できることが子どもの成長に伴う切れ目のない支援が実現するために、重要なことだと考えています。</p>
川野委員	<p>キーワード：「<u>ニューノーマル時代の環境整備</u>」</p> <p>新型コロナにより、社会全体が新たな日常を模索するなか、こうした社会変化に対応した環境整備を子ども側および親側の双方に行うことが必要と思われる。</p> <p>特に子どもには、どのような状況においても、全員が平等かつ一定レベルの保育・教育を受けられる環境整備を行うことが重要と考えます。</p>

委員名	ご意見等
神田委員	<p data-bbox="405 248 1337 286"><u>キーワード：「産んでよかった・生まれてよかった・育てよかった」</u></p> <p data-bbox="405 342 1430 801">「今の時代に子どもを園に出せたら良かった」「今、園に子供を通わせている親がうらやましい」と小学生以上の子供を持つ親からよく聞きく。実際私もそう思う親の一人である。現在幼児教育の無償化、大分にこにこ保育事業での第2子以降の保育料無償のおかげで、園では第一子が3歳の誕生日又は、2歳児クラスの終わりまでの保育料で通園できる。待機児童も徐々に解消されている現在、金銭面では昔に比べて子育てしやすい環境になっていると思う。幼児期は十分に整った環境の中で育てられる。保育園、認定こども園は毎日保護者の方と情報交換ができ、あまり大きなトラブルにならない。園に通っていない子ども達は支援センターやホームスタートを無料で利用できる。</p> <p data-bbox="405 817 1430 1093">では今何が問題か！それは義務教育以降の人間関係のネットワークにあると思う。一つ目は地域力。地域力を考えると、十分に子育てに賛同できるボランティアを含め人材は多くあるがその貴重な「力」が子ども達に届いていないように感じる。子供会も衰退し、地域との繋がりが薄くなっている中、親も積極的に繋がり、地域力が子ども達に届く、子ども達を真ん中にした地域ネットワークの取り組みができないだろうか。</p> <p data-bbox="405 1108 1430 1657">二つ目は親のネットワーク。子ども達に一番近い環境である親に問題があるのではないだろうか。親が悪いというのではなく、親がわが子と思う気持ちが高まる為か、必要以上に情報をキャッチし過ぎて、反対に学校の先生と子供とのコミュニケーションの弊害になっているように感じる。親は個人情報保護の関係で学校では連絡網がなくなり、連絡手段の一つとしてグループラインを作る。緊急連絡のみのツールであれば良いのだが、ほんの少しの書き込みで、担任の教師、特定の子供に対して中傷するような流れになり、教師が教壇に立てなくなっている事例は少なくない。大分県で小学校教員を希望する学生等が減少傾向にあることと関連性があるのではないだろうか。児童・生徒、職員が心身共に健全で活気ある教室の中で学び合う。そのためには親の在り方を考え、学べる取り組みが、後には大分県の学力アップに繋がると思う。</p> <p data-bbox="405 1673 1430 1803">親は誰でもわが子に幸せになってもらいたいと思い、できれば学力もついて欲しいと考える。もちろんより良い環境の中で学ばせたいと思う。それは今、大人の意識改革が一番の改善策のように私は考える。</p> <p data-bbox="405 1818 1430 1989">「この地で産み、育てたい」「この地で学び、働きたい」「産んでよかった、生まれてよかった、育てよかった」と思える子育て満足度日本一を目指す次の一手はこうして育った子ども達が大人になり「大分で子育てをしたい」と感じる親を含めた大人の姿にあるように感じる。</p>

委員名	ご意見等
土谷委員	<p><u>キーワード：「見えない子育て困難家庭を見えるようにすること」</u></p> <p>割合としては多くはないと思われるが、孤立したまま子育てをがんばっている家庭が、支援の対象とならないままに悲しい結果になることがまだ起きている。</p> <p>県や市町村や専門職や地域の資源が本気で協働すれば、このような家庭を確認し援助を送り届けることができるはず。その道を探り、手段を見つければ悲しい事件がおきる前に対応ができるはず。用意はできているのに。</p>
土居委員	<p><u>キーワード：「子育てを楽しもう！！」</u></p> <p>幼児教育の無償化によって経済的な負担は軽減され子育て支援が前進できました。</p> <p>次は、本題である、「幼児教育の質の向上」です。</p> <p>①施設保育の内容と保育者の配置基準の向上と保育時間の長時間化の是正の実施</p> <p>②幼児期の教育の重要性を保護者や社会に深く理解していただき、家庭・保育施設等・社会の連携をはかり充実した幼児教育を実現する。</p> <p>③子育て世代の「ワーク・ライフ・バランス」が実現できる社会づくり</p> <p>原則：0歳児保育は家庭でできる仕組みづくり。</p>
富高委員	<p><u>キーワード：「寄り添う応援態勢の強化」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「次の一手」ということで、何か新しいことを考えるのではなく、現在行われているサービスをより充実したものにしていくことが大切ではないか。 ・まずは、「子育て支援サービスを知っている人」の割合を100%となるよう、しっかりPRしていくこと。知らなくて使えずにいる人をなくすこと。 ・子育て、子育ての大きな支援となる「子育て世代包括支援センター」の仕組みや人員の配置をより充実させ、機能するものとする。子育てに悩む方々のかけこみ寺のような頼れる場所となるように！そうでなければ、全市町村に設置する意味がない。 ・子育てはもっとクーポンの利用範囲を広げていくこと・・・コロナの関係で、使い道もより育児を支援するものにしてほしい。(衛生用品、オムツ、ミルク・・・) ・児童クラブの子ども一人あたりの面積をより広く！！

委員名	ご意見等
中垣委員	<p><u>キーワード：「保護者に対する外出時の支援」</u></p> <p>核家族化によって今まで子育ての相談役で心強い存在であった祖父母の存在が遠くなり、また、プライバシーへの意識の高まりによって近隣住民との助け合いの精神が希薄化したことで、子どもを気軽に預けられるコミュニティが低下している。買い物の時や、家事がたまっておりこどもの相手を十分にできない時、子育てにつかれて休養をとりたい時など、日常生活の中でうまれる「数時間でいいから、こどもを預かってほしい」という悩みを解消できるような、身近な預かりサービスがより普及すれば、子育てに対する満足度の上昇につながるのではないかと考える。</p>
姫野委員	<p><u>キーワード：「子育てを地域で支えるために」</u></p> <p>子育て家庭が孤立することなく、地域に居場所があると感じながら生活していけることが大事だと思う。</p> <p>ママ友や地域の人達と繋がるきっかけを作ること、そのきっかけから継続して関わりが広がっていく場作りの必要性を感じる。</p> <p>校区単位の子育てサロンを充実させ、地域の中で地域の人達と子供の成長を見守りながら繋がっていける子育て環境づくりが必要だと思う。</p>
藤田巨宏 委員	<p><u>キーワード：「親子で地域で安心生活」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心して働ける環境づくり 親が安心して働くことができるよう、共働き、ひとり親、放課後、急病時、長期休暇時など、子どもを安心して預けられる場所が地域に万遍なく増えること。 ・子どもの学習支援を地域で 親が忙しく、子どもに宿題等勉強を教える時間が取りにくい家庭には塾があるが、低価格もしくは無料で分からないところを教えてくれる学習支援の場所の増加。 ・育児を物資面で支援 おむつや離乳食など日常使うものについての寄付や助成(クーポン)が受けられやすい環境づくり。 ・親のレスパイト支援 育児中の親に対しては育児疲労による心身の不調軽減のために、リラクゼーションサロンや指圧・マッサージ店への優待券配付など。

委員名	ご意見等
室委員	<p><u>キーワード：「産後ケア」</u></p> <p>○妊娠～出産、育児への切れ目ない支援として、玖珠町が先がけて始めた産後ケアですが、今年4月より、大分県内14市町村でも「産後ケア事業」としてスタートしました。</p> <p>出産後間もない時期に、母子が産科医療機関や助産所において、宿泊やデイサービス（日帰り）を利用し、助産師等の専門スタッフから身体的心理的ケアや育児に関するサポートを受けることができます。</p> <p>産後はホルモン等のバランスがくずれることがもあり、通常の出産、産後でも不安や悩みをかかえる人が多いなか、特にコロナ禍では、里帰り出産ができなかったり、夫の立ち会い、面会制限があったりと、母親の不安も増強され、なかなか解決されぬまま、自宅に退院となってしまうことも多くあります。</p> <p>産後ケアの必要性を改めて感じると共に、宿泊、デイサービス（日帰り）だけではなく、アウトリーチ型の導入も必要であると感じる。現実には、自宅が生活基盤となる為、訪問型の子育て授乳等のサポートは、母親の不安軽減、子育てへの意欲、自信へとつながるのではないかと。</p> <p>○20代に行っているライフデザイン講座、妊活推進講座を、高3や大学生にも対象として広げていくと共に、中学生、高校生にも命の大切さを含めた思春期健康教室等、周知できるとありがたい。</p>
幸野委員	<p><u>キーワード：「男性の育休取得率の向上」</u></p> <p>2019年度の男性の育休取得率はわずか7.48%でした。2020年に13%の取得率を目指していた国の目標に遠く及びません。</p> <p>一方で、2017年に実施したアンケート結果では、新卒の約8割の男性が「子どもが産まれたときに育休を取得したい」と回答しています。</p> <p>取得希望者は多いのに、実際は取得できない現実があります。</p> <p>取得できない原因は代替要員不足などもありますが、一番多いのは職場の上司の無理解や職場の雰囲気だということです。</p> <p>今後、解決していくべき課題であることは間違いないのですが、この世代間ギャップや、周りの目を気にしてしまう日本人の気質を変えていくことは並大抵のことではありません。</p> <p>非常に高いハードルですが、大分県にはぜひとも次の一手として『男性の育休取得率日本一』を目指して頂きたいです。</p> <p>当団体も今年度はプレパパに対しての講座に力を入れ、啓発を行うことを進めてまいります。</p>